

CSR推進上の重点課題



健全かつ強固な サプライチェーンの構築

8

働きがいの
経済成長も



12

つくる責任
つかう責任



背景と課題認識

グローバル化の進展とともに、サプライチェーンが世界中に広がるなか、企業には競争に勝ち抜くためのQCDE（品質・コスト・納期・環境）を備えた最適なサプライチェーンの構築が求められています。一方、仕入先の企業倫理に反する行動が、委託会社の管理問題として責任が追及され、社会からの信頼を損なう事案が頻発しています。そうしたなか、企業には仕入先との公平・公正な取引を前提に、サプライチェーン全体で人権・労働慣行、品質・安全、環境、腐敗防止などに配慮したCSR活動の推進および、責任ある調達を履行することが不可欠となります。

めざす姿

社会課題が多様化・複雑化する昨今、グループ内にとどまらず、サプライチェーン全体でCSRに取り組むことが重要です。矢崎グループは、仕入先と公平・公正で誠実な取引を基本に、CSRに関する方針や目標を共有し、協働で社会課題の解決に取り組むことをめざしています。グローバルデータ市場での激しい競争を勝ち抜くためにも、仕入先と共存共栄を図り、強固な戦略的パートナーシップを構築するとともに経営環境の変化に即応できる体制を築きます。

